

盛大だった おおつかクリニックまつり

第17回おおつかクリニックまつりは8月27日、クリニック駐車場で350人が参加して盛大にひらかれ楽しみました。響座の熱のこもった和太鼓演奏ではじまり、村尻勝信大塚江南支部長の開会あいさつ、三宅知里所長あいさつと職員紹介、ふたば保育園児による鼓笛演奏、踊りやフラダンス、子どもたちと「みんなで歌おう」も好評でした。



「大塚音頭」の踊りでは参加者が次々に加わり輪が大きくなり、にぎやかに盛り上がりました。最後の抽選会では、3等・2等・1等と当選番号が読み上げられると手を上げて商品を受け取っていました。所長賞(商品券五千円)は大塚台から初参加の婦人に当り大喜びされていました。組合員加入と増資の訴えには、1名の加入と3万円の増資がありました。模擬店では若い職員の協力で焼き鳥、焼きそばなどには行列ができるほど。完売で買えない人がでるほどでした。

このまつりは、「おげんきですか」配布協力者の招待、組合員とのつながり、地域の人々への感謝をこめて、西部支部、大塚江南支部、おおつか生協クリニックの三者で毎年開いています。(西部支部 天水貞照)

おげんき仲間へ配布協力員紹介



赤木和美さんは花ヶ島町にお住まいです。お母さんの美和子さん(81歳)が北2支部の運営委員の活動の他、地域の老人クラブや、サロンの運営など、日々大変忙しく活動されています。優しい和美さんは、その働き過ぎのお母さんが心配で、毎日の生活やおげんきですか「配布など、活動の手助けをしておられます。」「20部ほどウォーキングしながら配っていますが、健康にも良いようです。皆様も始めてみませんか?」と、明るさはお母さん譲りです。コープ花ヶ島店の健康チェックにも時々応援に駆け付けてもらっています。(北2支部)

《お問い合わせ》 組織部 0985・31・9055

第30回日本高齢者大会in東京

8月28日(29日、全国から9,000名(延べ人数)を超える高齢者が、宮崎県からは医療生協の組合員さんをはじめ9名が参加しました。今年も、日本高齢者大会が始まって30年目の節目の年。安倍政権による暮らし、平和、立憲主義の破壊という情勢の中で開催されました。



記念講演では東京都知事選に立候補した鳥越俊太郎氏(ジャーナリスト)が「憲法70年 未来へのメッセージ」をテーマに、「参議院選の結果を見て東京都知事選になりストップ安倍政権の旗を上げよう」と立候補した。安倍政権の危険さ、危うさをみなさんと考えていきたい。安倍首相はアベノミクスで日本を良くすると訴えているが、経済は上向いていない。また安倍政権は国民を騙しながら集団的自衛権の行使の閣議決定や特定秘密保護法の強行採決などを行ってきた。これは独裁政治に他ならない。私たちが選挙で言いたいことや国会前での行動を通して危険な安倍政権をストップしなければならぬ。安倍政権に騙されず正しい心構えをもって、次期衆議院選挙でも野党4党の共闘で「平和と安全の道」を歩いてほしい」と、高齢者に分かりやすい内容の講演でした。

宮崎から参加の岩切八郎さんは、医療・介護をめぐる情勢と運動の課題の分科会に参加しました。「いろいろな運動をしていく中で、積極的に行政に話し合いを申し込んでいきたいと思います。」「今後の宮崎での高齢期運動の夢を語っていました。」



映画「ROCKY」の曲に合わせて壇上した鳥越俊太郎氏の記念講演

宮崎県高齢期運動連絡会事務局 田中裕人

「だれも知らない」

医療生協では、患者を生きる権利の主体者として人権を守る視点から捉えることが重要であると考えています。憲法について知り、命・健康・生活にとつての憲法の存在意義は何かを考え、医療者として自分たち出来ること、学び考えることを目標に宮崎医療生協の奨学生とともに学習を重ねてきました。



熱心に耳を傾ける36名の受講者

その一つとして宮崎日日新聞社で「みやぎき子ども貧困」の連載記事の取材をされていた吉元まゆみさん(編集局整理部)に講師をお願いし、8月7日に学習会を行いました。奨学生や職員、組合員さん36名が参加しました。講演では、宮崎の貧困の現状(宮崎県の子どもの貧困の現状は全国ワースト6位、背景として産業の脆弱さ、離婚率の高さが考えられる)や貧困の世代間連鎖(貧困家庭で育った子どもが十分な教育を受けられず、大人になっても貧困に陥ってしまう)、また医療現場でおきていること(飛び込み出産・健診の未受診・治療・予防接種へのためらい、悪化後の受診)など取材を通してみえた現実を語られました。

参加者から、「私が想像していた以上に子ども貧困は深刻だったというのが正直な感想。」「あたりまえの考えだけに頼らず、その人の背景にあるのは何かを視ることで貧困に対して深く関わる事ができると感じた。うつすらの気付きを見逃さず自分から遠ざけるのではなく踏み込むことが大切で、皆でサポートしていくことが必要だ。」「貧困に気づくためには自分から地域に関わっていくことが必ず必要だ。」「自分ができることとして友達や周りの人に子ども貧困について学んだことを伝え合っていくことが大事だと感じた。より多くの人が貧困について知ることが大切だと思った。」などの感想が寄せられました。(宮崎生協病院師長室 松本朋美)

宮崎生協病院 地域包括ケア病床 準備のご案内

宮崎生協病院リハビリ科 野田 藍

「なぜ地域包括ケア病床なの?」

超高齢社会への対応として「地域包括ケアシステム」が提示されました。「地域包括ケアシステム」とは、団塊の世代が75歳上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステムとして、厚生労働省が提示したものです。

床数を減らし、病院から在宅・介護への誘導を政策的に進めています。その背景には、社会保障財源の圧縮があると言われていいます。そのため2014年の診療報酬改定にて、地域包括ケアシステムを支える役割を担う病床または病床として新設されました。

当院でも「地域包括ケア病床」の運用に向けて準備を進めているところです。

「地域包括ケア病床とは?」「どんな入院になるの?」

急性期治療を経過し、病状が安定した患者様に対して、在宅や介護施設への復帰支援に向けた医療や支援を行う病床です。本来は、一般病棟で症状が安定すると、早期に退院して頂くこととなっております。しかし、在宅での療養に不安があります。もう少し入院治療で社会復帰できる患者様の為に、安心して退院して頂けるような支援する病床です。心身が回復するような医師や看護師、病床専従のりハ

ビリテーション科のセラピスト等により、在宅復帰に向けて治療・支援を行い、病床専任の退院支援看護師が患者さんの退院支援、退院後のケアについてサポートさせていただきます。地域包括ケア病床へ入院して頂く場合は、主治医が判断し患者様・ご家族に提案させて頂きます。入院期間は、状態に応じて調整致しますが、60日を限度としております。

① 高度急性期や急性期からの受け入れ



④ 在宅・生活復帰のための支援

在宅復帰の準備と、必要な心身機能の回復リハビリや食べる訓練、栄養や内服指導など、必要な在宅サービス等を受けられるためのケアプランの立案

③ その他の受け入れ

地域包括ケア病床での受け入れが可能な疾患の方
★当院では様々な教育入院の方が対象

虹の声 宮崎生協病院虹の意見箱

9月度宮崎生協病院利用委員会

○感謝の気持ちでいっぱいです。担当医の先生、看護師の方々いろいろな不安を持って入院しましたが皆さまの思いやりの心でどの患者さんにも接しておられるのを拝見し「すばらしい病院だ」と心より思っております。いろいろありがとうございました。

◎お褒めの言葉ありがとうございます。10・11月は接遇向上月間です。これまで以上に取り組んで参ります。

みんなの声

・介護報酬や診療報酬の改定により、私たちに不都合な環境になりつつあるような気がします。住みやすい環境になるようにできることを探したいと思えます。(宮崎市Gさん女性)

・原子力発電所がまた再稼働をはじめた。広島、長崎、福島と懲りてるはずなのに。川内原発までも。使った燃料(核)の後処理が大変なのに。(宮崎市Kさん女性)

おげんきですか文芸欄

思い出の句、柳田麦風(このはな支部)

乳の匂い 母の匂い 祖母の匂い
味噌汁の匂い いわしの匂い
どぶろくの匂い 煮しめの匂い
かまどの匂い 土間の煤けた匂い
馬の匂い 牛の匂い 豚の匂い
鶏の匂い 犬の匂い
田んぼの匂い 畑の匂い
草いきれの匂い 森の匂い
川の匂い、遠い思い、出の匂い

組合員のみなさんの短歌・俳句・川柳のご投稿をお待ちしています。

今、宮崎医療生協は 2016年8月現在

- 新規加入者 101名(8/1~8/31)
- 総組合員数 49,297名
- 出資金 5億5,866万円
- 平均出資金 11,333円
- 班数 333班
- 手配り配布数(おげんきですか) 19,481部

＜審議・決定事項＞

- ①8月度の組合員活動概要と各種委員会の取り組みについて報告がありました。8月の組合員増やしは101名(目標137名)と、出資金増資は311.2万円(目標350万円)と目標を下回りました。8/27に開催された「おおつか生協クリニックまつり(約350名参加)」、9/4,5に行われた「共同組織活動交流集会in石川」の報告を受けました。
- ②「安法運用への訓練開始」「辺野古での米軍基地建設」「鹿児島県知事川内原発一時停止要請、九州電力は即時停止に応じず」「宮崎県内で精神疾患の休職率高水準」「待機児童2年連続増加」「宮崎市認知症カフェへの補助金について」「新総合事業について厚労省の方針、宮崎市の方針」について説明がありました。また「辺野古基地の裁判問題」「高江のヘリパッド基地建設」「川内原発問題」「TPP」についての補足発言もありました。9/9の風船ピースアクションは6事業所で職員、組合員合わせて約200名が参加しました。熊本地震の義捐金の報告も受けました。
- ③7月度の経営概況について報告がありました。7月の法人の経常利益は12万円の赤字、累計で611.7万円の赤字の報告がありました。月次の仮決算における貸借対照表の表記についての説明もありました。また「みんなの家」「ぎおんの家」の有料法人ホームでの月額負担金の事例についての説明を行いました。

＜報告・承認事項＞

- ①8月度事業所活動について報告・承認しました。
- ②8月度第5回医療安全管理委員会について報告・承認しました。
- ③8月度宮崎生協病院利用委員会について報告・承認しました。
- ④第42期第2回東連看護委員会について報告・承認しました。
- ⑤8月度東連介護事業所責任者会議について報告・承認しました。
- ⑥8月度経営協議会について報告・承認しました。
- ⑦第27期3,4回常勤理事会について報告・承認しました。
- ⑧宮崎県民医連第8期第4回理事会について報告・承認しました。
- ⑨宮崎県社保協第5回幹事会について承認しました。
- ⑩人事について報告・承認しました。
- ⑪その他(参議院選挙職員アンケート集計)

2016年9月度 理事会の報告